

ウナギの年間漁獲尾数の推定と漁獲魚の体重組成

片岡佳孝・根本守仁

1. 目的

琵琶湖では長年ウナギの放流が行われてきた。しかし、その放流効果（放流尾数に対する回収尾数）については十分な調査がされてこなかった。放流効果の把握は、資源の維持管理を行っていく上で必須である。その第一段階として本年度は、漁獲時期と漁獲方法の把握および年間の総漁獲尾数の推定を行った。

2. 方法

ウナギの年間漁獲量の把握には琵琶湖の漁業情報システム（名称：湖レコ）と滋賀県漁業協同組合連合会への漁獲報告（2024年1月～12月）を用いた。また、より詳細な漁獲情報収集のために2024年6月から10月にかけて6経営体（竹筒3、延縄1、かご2）に漁獲日誌の記入を依頼した。記入内容は、操業ごとの体重別漁獲尾数、操業場所、漁具の設置数とした。漁獲日誌から魚体重のヒストグラムを作成し、それをもとにして総漁獲量から階級ごとの尾数を推定した。

3. 結果

漁獲報告はのべ1,349件あり、報告された総漁獲量は、2,861kgであった。漁獲時期は主に5月から10月であり、特に6月と7月で年間漁獲量の41%を占め、琵琶湖のウナギ漁の盛期は6月から7月であった（図1）。漁法では、竹筒と延縄による漁獲が主体であり総漁獲量の75%を占めていた（図2）。漁獲日誌の魚体重組成（竹筒、かごおよび延縄のデータ、n=300）を用いて総漁獲量から推定した総漁獲尾数は4,563尾であった（図3）。漁獲尾数では200～300gの階級が最も多く全体の26%を占めた。一方で1kgを超える漁獲魚の割合も全体の21%を占めており、大

型のウナギもコンスタントに漁獲されていた。

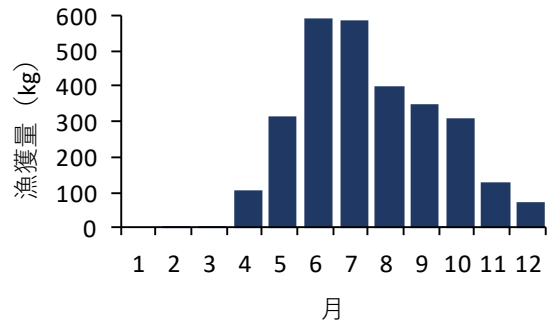


図1 月別漁獲量

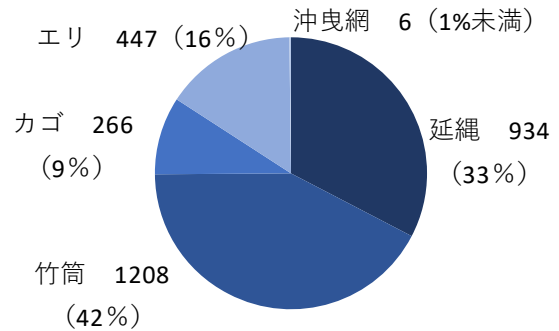


図2 漁法別漁獲量 (kg)

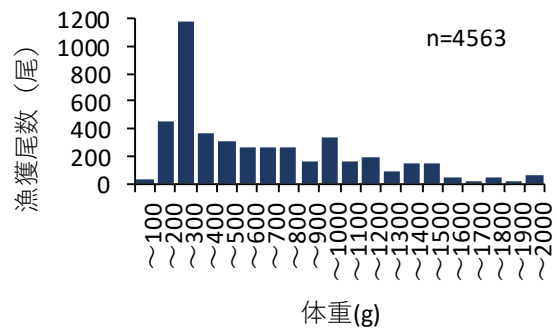


図3 推定された体重別漁獲尾数

※本研究は、水産庁からの委託事業「資源回復のための種苗育成・放流手法検討事業」の一部として実施した。